

五 雜件

1 各地情勢（滿州を含む）

202

昭和16年12月11日

在滿州国梅津大使より
東郷外務大臣宛（電報）

開戦に際し滿州国から南京国民政府へ發せられた電報について

新 京 12月11日後發

本 省 12月11日夜着

第八一六號

十日張國務總理ヨリ汪行政院長宛左記趣旨ノ電報發セラレタリ

今日日米英戰開始セラレ從來東亞諸民族ヲ搾取シ橫暴ヲ極メシ米英勢力ヲ擊滅スルノ時機到來セリ帝國ハ日本ニ全面のニ協力スルノ決意ヲ固メ貴國モ又同様ノ聲明ヲ發セラルハ同慶ノ至リニ堪エス

今後貴我兩國政府ハ鞏固ナル決意ヲ以テ必ス所期ノ目的ヲ

達成センコトヲ期セントス

203

昭和16年12月13日

在滿州国梅津大使より
東郷外務大臣宛（電報）

「ハル・ノート」に滿州国からの撤兵及び同政府の否認要求が含まれていたかにつき回示

方依頼

新 京 12月13日後發

本 省 12月13日夜着

第八二八號

山本亞米利加局長へ花輪參事官ヨリ

「ハル」覺書中ニハ（一）支那ニ於ケル日本軍等ノ撤收（二）重慶政權以外ノ政權ヲ認メサルコト等ノ條項ヲ含ミ居リ從テ滿洲國ヨリモ撤兵シ且滿洲政府ヲ非認センコトヲ要求シ來タリタルモノト了解シ居ル處右ニテ差支ナキヤ關係各方面啓發指導上必要ナルニ付至急御回示相煩度シ

204

昭和16年12月19日

在満州国梅津大使より
東郷外務大臣宛(電報)

「ハル・ノート」に満州国からの撤兵及び同

政府の否認要求が含まれていた点につき喧伝

方意見具申

新 京 12月19日後発

本 省 12月19日夜着

第八四五號

貴電第九四五號ニ關シ

冒頭貴電ノ通り米國ハ日本カ滿洲國ヨリモ撤兵シ且ツ滿洲國政府ヲモ否認センコトヲ要求シ來リタル點ハ我國ヲシテ華府條約當時ニ立歸ヘラシムルモノニシテ如何ニ米國カ現實ニ眼ヲ被ヒテ架空ノ原則ヲ強要スルカヲ如實ニ示ス恰好ノ實例ニシテ此ノ點ヲ明カニセハ一段ト國民士氣ノ振起昂揚ニ資スルモノト存セラル一般言論界ハ素ヨリ要路ノ時局説明等ニ於テモ未タ此ノ點ヲ明確ニセラレサルヤニ思考セラルル次第ニテ今後ノ啓發ニ當リテハ此ノ點ニモ觸レラルコト有效カト思考ス右氣付ノ儘

編 注 本書第203文書に対する回答と推測されるが見当らず。



205

昭和16年12月19日

在満州国梅津大使より
東郷外務大臣宛(電報)

開戦後における満州国内各民族の反応について

新 京 12月19日後発

本 省 12月19日夜着

第八四七號

大東亞戰開始後我方ノ戰果擴大ニ伴ヒ日系ノ感奮興起素ヨリノコトナルカ豫テ内心日米開戰ヲ希望シ日本ノ敗戰ニ乘シテ獨立ヲ獲得セント劃策シアリタル一部滿鮮人モ皇軍ノ赫赫タル戰果ニ依リ帝國ノ實力ニ驚歎シ蠢動ノ餘地無く更ニ一般滿鮮人ハ帝國ニ依賴スルノ機運急速ニ強マリツツアリ殊ニ鮮人ハ米英擊滅大會國防獻金實踐運動等ヲ起ス外「鮮系義勇軍ノ編成」「鮮系ニ對スル懲兵制度ノ早期實現」等ヲ要望シ帝國ト協力スルノ空氣濃厚ナルカ滿人亦同様積極的日本援助ヲ表明シ帝國陸海軍ニ對スル國防獻金ハ從來ニ無ク多數ニ上リ居リ從ツテ政府當局ニ於テモ治安保持上其任務遂行甚タシク容易トナリタリト稱スル情況ニテ今後

英米蘇等ニ於テ對滿攪亂工作ヲ行フコトアルヘキモ且下ノ處何等不安憂慮ヲ要スルノ事態ヲ認メス

南大、上大、北大、天津へ轉電セリ

~~~~~

206 昭和16年12月26日 在タイ坪上大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

滿州国へのタイ国公使派遣に關し在タイ日本

大使館での業務代行方意見具申

バンコク 12月26日發  
本省 12月26日夜着

第一一〇〇號(館長符號扱)

往電第一〇五六號ニ關シ

(欄外記入) 滿洲國カ「タイ」國公使ノ派遣ヲ受諾スル場合滿洲國トシ  
テモ交換のニ公使派遣ヲ考慮スルコトトナルヘキ處從來滿

洲國ノ獨伊ニ於ケル公使館ノ事情ヲ見ルニ實質的の事務ハ總

ヘテ日系官吏ニ於テ處理シ滿系外交官ハ全ク虚心ヲ擁スル

ニ過キス況ヤ元來滿洲國ニ外交ハ在リ得サル次第ニシテ重

要外交ハ總ヘテ日本大使館ニ於テ當ル建前ヨリスレハ滿洲

國外交機關其ノモノカ重復的無用ノ存在タル感アリ抑々滿

洲國カ此ノ種外交機關ヲ設置シタル原因ノ一ハ英米ノ反對

ニ對スル假面政策ニアリタルヤニ思考セラルル節アル處今  
回ノ大東亞戰爭ハ過去ニ於ケル英米氣兼外交ニ終始符ヲ打

チタルコトニ於テ意義ヲ有スルモノナルニ鑑ミ此ノ種理念

ニ基ク外交方針ニ對シテハ全面的再檢討ヲ加フル要アルヘ

ク自然此ノ際滿洲國カ徒ニ形式主義ニ捉ハレ獨立外交機關

ヲ設置セントス(ル)行方カ妥當ナリヤ否ヤニ付テハ疑問ナ

キヲ得サル次第ニテ旁々往電第一〇九一號ノ事情ヲ考慮ニ

入ルレハ寧ロ此ノ際我大使館ニ於テ滿洲國外交機關ヲ代行

シ商務關係等滿洲國必要職員ヲ當館員トシテ働カシムルカ

又ハ商務領事ヲ別ニ設置スル程度ニ止ムルコトトスル方總

ヘテノ點ニ於テ實際的ニアラスヤト存ス此ノ場合滿洲國ヨ

リ「タイ」國ニ對スル外交事務ヲ我方ニ委任スル等ノ形式

ヲ取ルナラハ公使交換ノ建前ハ一應保持スルコトヲ得ヘシ

(欄外記入)

斷シテ不可ナリ

~~~~~

207

昭和17年1月26日

在北京土田參事官より
東郷外務大臣宛(電報)

開戦後の華北諸施策見直しに関する前興中公

司社長内話について

北京 1月26日後発
本省 1月26日夜着

第七八號(極秘、館長符號扱)

二十六日。河前興中公司社長來訪一昨日來燕シ岡村軍司令官、安達參謀長及有吉參謀副長ニ對シ大東亞戰爭ノ勃發ニ依リ事態ハ一變シ殊ニ支那側ニ於テモ日本側ニ對スル協力ノ氣運動キツツアル此ノ際ニモアリ當方面ノ政治經濟施策ニ付根本的ニ再檢討ヲ加ヘ支那側ニ任セ得ルモノハ之ヲ支那側ニ任セ以テ支那側カ心カラ我ニ協力スル様誘導スルノ要アリトノ趣旨ヲ強調シタルニ何レモ贊意ヲ表シタリト述ヘタルニ付北澤ヨリ大使館トシテモ大東亞戰爭勃發以前ヨリ微力乍ラ御話ノ如キ「ライン」ニテ軍側其ノ他關係方面トノ聯絡ニ全力ヲ盡シ居ル次第ニテ軍興亞院主腦部方面ニ於テモ概ネ之ニ同意ナリ過般新民會改組セラレ相當ノ反對ヲ押切ツテ日本人職員中心ヲ改メテ中國人職員中心トナシ

タルハ其ノ一ツノ現ハレト認メラル何レニスルモ軍、興亞院方面ニ於テ主腦部ノミナラス一般ニ御話ノ如キ氣持ニナルニアラサレハ政策ノ轉換ハ困難ナルヘキニ付此ノ上トモ盡力ヲ煩度シト述ヘ置キタル趣ナリ尙同氏ハ二週間位當地ニ滞在ノ模様ナリ

南總(外信)、上海ニ轉電セリ



208

昭和17年4月30日

在中国日高代理大使より
東郷外務大臣宛(電報)

滿州国訪問の意義を汪兆銘説明について

南京 4月30日後発
本省 4月30日夜着

第四九九號(館長符號扱)

本使發滿宛電報

第三八號

二十八日汪主席往訪ノ際主席ヨリ自分ノ滿洲訪問ニ關シ率直ニ御話シ度シトテ大要左ノ通り語リタリ

今次ノ訪問ハ昨年ノ日本訪問ト趣ヲ異ニスル所ハアルモ亦重大ナル意義アリト思考ス即チ(一)三國共同宣言ノ精神ヲ明

カニシ之ヲ全國ノ民衆ニ知ラシムル要アリ打開ケテ申サハ同志ノ中ニハ尙釋然タラサルモノ無キニ非サリシモ自分ハ決シテ然ラス快ク出掛クルモノナレハ此ノ氣持ヲ彼等ニ徹底セシムル必要アリ(二)重慶ニ對スル宣傳上ノ效果モ大ナリ即チ滿洲國ハ支那ノ植民地ニアラサルコトヲ彼等ニ知ラシムル要アリ

實ハ從來滿洲國ニ關スル資料ハ外交部ヲ通シ入手スル程度ニテ極メテ少ク殊ニ滿洲國方面ヨリスルモノハ殆ント無キ有様ナレハ先頃ヨリ呂大使等ニ御願シ出發前研究シ居ルモ尙此ノ上トモ出來得ル限り資料ヲ携ヘ歸リ度キニ付便宜ヲ與ヘラレ度シ滿洲國ノ行政機構等ニ付多少研究セルカ種々學フヘキ點アリトテ極メテ冷靜且理解アル批評ヲ爲シ重慶側ハ日本カ滿洲ノ生産物ヲ極メテ安く買取り現地ニ於ケル再生産ヲ不可能ナラシメツツアリト宣傳シ居リ此ノ種ノ惡宣傳ハ民心ニ深刻ナル影響アルニモ鑑ミ的確ナル反證ヲ舉ケテ國人ノ蒙ヲ啓キ度シト述ヘタリ

主席ノ心境右ノ如クナルニ付滿洲國側ニ於テモ右ニ對應シ適當接待セラルル様希望ニ堪ヘス本件ハ本使ヨリ呂大使ニ話シ置キタリ同大使ヨリ報告アルコトトハ存スルモ右含ミ

ノ上然ルヘク御配慮相煩度シ
大臣、北大、上海へ轉電セリ

209 昭和17年5月27日

在中国重光大使より
東郷外務大臣宛(電報)

中国共産党の勢力拡大や重慶政権と中国共産党との關係などに関する汪兆銘との會談について

南京 5月27日後着

本省 5月27日夜着

第六四四號(館長符號扱)

(1) 二十五日本使歸任ノ挨拶旁々汪主席ヲ訪問シ時餘ニ亘リ會談セルカ其ノ内御參考トナルヘキ點左ノ通り(會談録郵送ス)

一、本使ヨリ滿洲國訪問ノ儀滞リナク終了セルニ對シ祝意ヲ述ヘタルニ汪ハ滿洲國ニ於テ第一ニ感シタルコトハ防共線カ極メテ堅固ニ築造セラレ居ル事實ニシテ特ニ日本軍カ北滿國境ニ於テ十年來築造セル防禦線ハ恐ラク「ジークフリード」ニモ優レル堅固ナルモノト察セラレ日滿支三國共同宣言モ茲ニ重大ナル意義アルコトヲ深く認識セ

リトテ日高公使ニ對スル談話ノ點ヲ繰返シ尙右ノ點ハ對外的ニハ輕々シク口ニスヘカラサル所ナルモ政府部内、軍隊、學校等ニ於テハ説明シ其ノ意義ヲ徹底セシムルニ努メツアルカ一般ニ對シ多大ノ感銘ヲ與ヘツツアル模様ナリト語り三國ノ對外的共通ノ立場ヲ強調シ特ニ反共政策ニ大ナル關心ヲ示シタリ

二、影佐顧問ノ轉任等ニ絡ミ帝國ノ對支方針ニ變更アルヘシトテ支那側ニ懸念ノ空氣濃厚ナルニ鑑ミ本使ヨリ歸朝中政府當局及在野各方面ニ接觸シタル結果ハ何レモ日支問題ニ重大關心ヲ有シ政府ハ専ラ既定ノ方針ニ則リ一意國民政府ノ發展ト主席ノ努力ノ成功トヲ期待シ居ルモノナルヲ確メ得タリ特ニ畏クモ

天皇陛下ニ於カレテハ國民政府ノ現狀竝ニ日支ノ關係ニ付常ニ御心ニ懸ケサセラルル様拜察セリト述ヘタルニ主席ハ

陛下ノ大御心ハ寔ニ感激ニ堪ヘス昨年六月訪日ノ際親シク

陛下ヨリ賜リタル御言葉ヲ想起シ一層恐懼ニ堪ヘサル所ナリ近ク楮民誼ヲ訪日專使トシテ派遣シ貴國ニ對シ大東

亞戰爭ニ於ケル戰勝ヲ祝シ國民政府ニ對スル援助ヲ謝スルト共ニ大東亞戰爭ニ對スル國民政府ノ協力ノ決心ヲ披瀝セシムル豫定ナルカ其ノ際親書ヲ陛下ニ奉ル積リナリト述ヘタリ

三、⁽²⁾防共ノ問題ニ關シ本使ヨリ主席ハ多大ノ關心ヲ有セラルル處現在北支ニ於ケル共產黨ノ活動甚タシク中支ニ於テモ蠢動ヲ續ケ目下日本軍ニ於テ之カ討伐ヲ行ヒツツアリト述ヘ更ニ大東亞戰爭ニ對スル同甘共苦ノ精神ニ基キ中國側ノ協力ニ付何等具體案ニテモ出來レハ有意義ナルヘシ此ノ點何等考究セラレタルコトアリヤト尋ネタルニ對シ汪ハ中國共產黨ト蘇聯邦トノ連繫ノ密接ナルコトハ從來ノ歷史ニ徴スルモ明カナル所ナルカ日支事變以來巧ミニ抗日ヲ鼓吹シ國民黨軍ヲシテ日本軍ニ當ラシメ自ラ我カ軍隊及地盤ノ擴張ニ專念シ今ヤ事變前ノ十倍ノ勢力ニ増大セリ若シ北滿ニ於ケル防備無カリセハ彼等ハ夙ニ東亞ノ心臟部ニ喰入リタルヘク又獨蘇戰無カリセハ其ノ勢力ハ今日以上ノモノニ發展シタリシモノト察セラルル現在彼等ノ所謂祖國カ日ニ弱リツツアルコトハ我々ニ取り幸ヒナルモ一面日支事變ノ續ク限り中共ノ勢力ハ増大ノ一

途ヲ辿ルヘシ彼等ハ日支相闘ハシメツツアル間ニ民心ヲ日本ヨリ離反セシメ國民政府ト民衆トノ離間策ヲ講シツツアリ北支ニ於テハ一度北京城ヲ出ツレハ共產黨ノ影アリ城内ノ青年學生ニシテ其ノ主義ニ感シ居ル者比々皆然リ南京附近ニ於テモ最近二十日間程ノ間ニ國民政府ノ軍隊ニシテ共產黨側ニ寢返リタル事件發生セルカ是レ我方ノ軍隊カ法幣ノ下落ト物資ノ缺乏ニ依リ生活ニ困窮シ容易ニ共產黨側ノ宣傳ニ乗セラレタル結果ナリ之ヲ防遏スルニハ第一ニ國民黨ヲ強化シテ組織アル對抗方法ヲ講スルコト第二ニ軍隊ノ待遇ヲ改善シ生活ノ安定ヲ圖ルコト第三ニ青年學生ノ士氣ヲ鼓舞シ大東亞建設ノ熱意ヲ振起セシムルコト必要ナリ是等ノ工作ニハ勿論日本ノ援助ヲ要スルモ其ノ援助カ若シ誤リテ壓迫ノ形ニ至ラハ一切ノ教化ハ水泡ニ歸スヘシ我ニハ勿論人材ニ乏シク日本ノ指導ニ俟ツ所多キモ指導變シテ壓迫トナレハ新人材來ラサルノミナラス舊人材モ四散スル惧アリ政府強化ニ對スル日本ノ執ルヘキ方法ハ一半ハ積極的ノ援助タルヘク一半ハ自由ヲ與フル消極的ノ援助タルヘシ今日問題トスヘキハ人材ノ缺乏ニアラスシテ寧ロ日本ト合作セントスル

熱意ヲ一層起サシメ得ルヤ否ヤニ存ス具體的ノコトハ追テ御話シ致度シト述ヘタリ

四、^③最近蔣介石側ト共產黨トノ關係惡化シ兩軍衝突ノ可能性

アリトノ新聞記事アル處御觀察如何ト尋ネタルニ汪ハ中央軍ト共產黨トハ根本的ニハ兩立セサル關係ニアリテ依然トシテ同床異夢ノ關係ニアル事勿論ナルモ蔣ハ共產黨ト離レテ然ル後日本ト媾和スル事ハ絕對ニアリ得ス蔣カ共產黨ト別ルルハ一般的和平成立ノ後ノ事トナルヘシ或ハ我方ニ於テ蔣ナリ蔣ノ部下ナリヲ引入ルル事出來得レハ其ノ後ニ於テ共產黨ヲ討伐シ得ルノ段取トナルヘシ即チ蔣カ蘇聯邦ノ援助ヲ絕對必要トスル英米ト提携シ行ク限り共產黨ト全然手ヲ切ル事不可能ナル有様ナリト答ヘタリ

五、最近蔣介石軍ハ我軍ノ爲緬甸ニ於テ^(藏)緘滅セラレ北支、中

支ニ於テモ大損害ヲ受ケツツアルカ其ノ立場及態度ニ對スル影響無キヤト尋ネタルニ汪ハ彼等ハ戰ニ破ルレハ退却スル丈ケニテ其ノ氣持ニハ變化無カルヘシ彼等ノ態度ヲ變ヘシムルニハ和平ニ對スル希望ト信賴ヲ與ヘサルヘカラス之カ爲ニハ和平地區ニ於ケル民衆ノ生活ヲ改善ス

ルコト第一條件ナリ彼等ハ現在上海等ヲ通シ當方面ノ狀況ハ手ニ取ル如ク知悉シ居リ愈々尻込ミスル傾向ニアリ彼等ハ恐ラク現狀ニテハ死ストモ和平ニハ參加セストノ心境ナルヘシ即チ彼等ヲシテ覺醒セシムルハ武力の壓迫ノミニテハ充分ナラスト述ヘタリ

六 最後ニ本使ヨリ珊瑚海々戰及緬甸陸戰ノ大戰果ノ意義ヨリ最近ノ大東亞戰爭ノ狀況竝ニ英米ノ苦境ヲ語り日本ノ必勝不敗ノ立場ヲ詳述シ置キタリ

北大、上海ニ轉電セリ

~~~~~

210 昭和17年5月29日

在中國重光大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

# 華北における中国共産党勢力に関する報告

南京 発

本省 5月29日着

郵第二號(極秘、部外機密、館長符號扱)

好富書記官ヲシテ北支ニ出張中共軍現狀ニ付テ研究セシメタル處同官ノ報告左ノ通り

一 中共軍ハ事變ト共ニ約三萬五千ノ兵力ヲ以テ北支ニ進出

シ來リ爾來漸次其ノ兵力ヲ擴大シ一昨年八月所謂百團大戰ニ於テ約五十ヶ所ヨリ我方ニ對シ一齊攻勢ニ轉シタル際其ノ兵力最モ大ナリシカ同戰鬪ニ於テ我軍ノ反撃ニ依リ其ノ兵力激減シタルモ爾來今日ニ至ル迄我方屢次ノ討伐ニ拘ラス其ノ兵力ニハ大ナル變動ナク現在正規軍二十五萬、民兵二百萬内外ヲ有スト推定セラル

二 中共ハ現在河北、河南、山西省境山嶽地帶ニ中共北方局ヲ設置シ晉冀魯豫邊區政府ヲ樹立シ朱德自ラ之カ統帥タリ而シテ重要都市及鐵道沿線ヲ除ク北支殆ント全地域ニ「ソビエツト」縣政府ヲ樹立シ其ノ數昭和十三年十八ナリシモノカ一昨年末ニハ三百三十四トナリ昨年末ニハ四百七十ノ多數ニ達シ北支政務委員會ノ設置セル縣政府數三百三十九ヲ反ツテ凌駕スルノ狀況ナリ(中共側ハ一縣内ニ數個ノ縣政府ヲ樹立スル場合アルヲ以テ此ノ數ノミヲ以テ其ノ勢力ヲ判定スル能ハサルモ之ニ依リ其ノ勢力カ廣範圍ニ浸潤シ居ルヲ知ルヘシ)

三 今中共ノ政策ヲ見ルニ主力ヲ政治工作ニ用ヒ人心ノ把握ニ努メツツアル處先ツ

(1)農村政策トシテハ

(イ)富農ノ土地ヲ沒收シテ中貧農ニ分配シ

(ロ)耕地整理、治水工事、荒地開墾等ヲ行ヒ

(2)財政政策トシテハ

(イ)合理負擔竝ニ統一累進稅ニ依リ社會政策ヲ實行シ

(ロ)從來ノ地主六割、小作人四割ノ小作料ヲ最高三割七分五厘ニ決定シ

(ハ)從來ノ利子三割ヲ最高一割ト決定シ

(3)其ノ他農村各地ニ農學校等ヲ設置シ農業技術ノ普及ヲ圖リ又合作社運動ニヨリ農業金融、農具購入等ヲ行ハ

シメツツアリ

滿鐵北支調査所員カ我方討伐軍ニ從ヒテ占領地區ニ至リ實地踏査セル結果以上ノ政策ハ大體實行セラレ人心把握亦相當成功シ地方農民ニシテ却テ中共側ヲ歡迎シ我方討伐ヲ喜ハサル場合モ有ル趣ナリ

四、今中共北支跋扈ノ原因ヲ考フルニ元來北支ハ支那ニ於テ最モ遅レタル地域ニシテ封建的性質ヲ多分ニ殘留シ中貧農ノ數最モ多ク且其ノ生活困難ニシテ正ニ共產運動蔓延ノ溫床ヲナシツツアル處中共急速ニ其ノ勢力ヲ擴大セラル原因ハ

(イ)事變ニヨリ北支政權潰滅シ一時無政府狀態トナリタル

コト

(ロ)徐州會戰以後蔣介石軍ノ敗殘兵力多數各地ニ分散セル

コト

(ハ)事變ニヨリ家屋、資産ノ破壞損失多ク流民多數排出セラレタルコト

(ニ)事變當初ヨリ連年水害、旱害アリ農民ノ生活愈々逼迫セルコト

等ニ原因スルモノト見ルヘシ

吾、前述ノ如ク一昨年夏以來中共ノ勢力ハ目立チタル減少ヲ見サルノミナラス其ノ勢力範圍内ニ於ケル人心把握ハ時ト共ニ益々其ノ強固ヲ加ヘツツアル狀況ニシテ我方必死ノ討伐力大ナル效果ヲ擧ゲ得サル理由ヲ考察スルニ

(イ)中共側カ黨、軍、政三位一體ニシテ政策力總テ完全ニ統一セラレ居ルニ反シ、我方ハ各機關互ニ對立シ縱及横ノ連絡ニ於テ甚タ遺憾ノ點多ク殊ニ右ハ地方ニ於テ甚シク、甲ノ爲ス所乙之ヲ<sup>(初ミ)</sup>防害スルカ如キ事尠カラサルコト

(ロ)中共側工作員ニ人材多ク且熱烈ナル闘志ヲ有スルニ反

シ我方機關殊ニ華北政務委員會、新民會等カ使用スル  
 工作員ハ屢々生活ノ爲ニ之ヲ爲スモノ多ク、從ツテ其  
 ノ工作ニ何等熱意無キコト(昨年九月燕京大學卒業生  
 中七割カ中共ニ走り二割カ重慶ニ赴キ一割カ家庭ノ都  
 合等ニ依リ北支ニ殘留セル狀態ニシテ以テ我方陣營ノ  
 人材不足ヲ知ルニ足ルヘシ)

(ハ)中共側政策ハ精密ナル調査ノ上民衆本意ニ立案セラレ  
 且之カ實行ニ當リテハ努メテ民利ニ背カサル様所有ル  
 努力ヲ拂ヒツツアルニ反シ、我方ハ住民ニ過重ノ負擔  
 ヲ課シ民心把握ニ重要支障ヲ生スル現狀ナルノミナラ  
 ス我方ニ於テ中共ノ政策ニ匹敵スヘキ完備セル農村政  
 策、土地政策ヲ有サス唯討伐地區ニ於テ極メテ姑息ナ  
 ル施策ヲナス狀況ナルコト

等ニ基因スルモノト思考セラル

六、蔣介石ハ前後五回ニ亘ル討伐ニヨリ中共軍ヲ江西省瑞金  
 ヲリ西北地區ニ移動セシムルニ成功シタルカ最初ノ三回  
 ハ完全ニ失敗シ第四次討伐ニ於テ兵力六十三萬ヲ、又第  
 五次討伐ニ於テ七十萬ヲ使用シ所謂七三政策ニヨリ政治  
 七分軍事三分ノ政策ヲ樹立シ人心把握ヲ圖リタル結果漸

ク剿共ニ成功セルモノニシテ、今其ノ内容ヲ見ルニ敵地  
 區奪取後ハ砲壘竝ニ道路ヲ建設シ完全ニ之ヲ確保スルト  
 共ニ(イ)難民救済(ロ)土地問題解決(ハ)合作社設立ニヨル農村  
 金融、必需品購入、農業生産獎勵(ニ)教育振興等ヲ圖リタ  
 ル外吏道刷新、特殊政治工作員ノ養成派遣等ヲ圖リ敵地  
 區ニ比シヨリ以上ノ善政ヲ敷キ以テ人心ヲ把握セル結果  
 ナリ

七、北支軍ハ今冀中ニ於テ共產軍討伐ヲ行ヒツツアルモ同地  
 共產軍ハ正規軍約八千人内外ニシテ假令之ヲ殲滅スルモ  
 北支共產軍ノ三十分ノ一二過キサル次第ナルカ中共側カ  
 「平原根據地ヲ山河トナス」トノ新戰術ニヨリ四通八達  
 ノ地下坑道ヲ構築シ居リタル爲之カ捕捉極メテ困難ニシ  
 テ殆ント大部分ハ逃亡シ遺棄死体及捕虜數ノ約二割程度  
 カ中共側ト見ラルル狀況ナル趣ニシテ今次討伐ニヨリ北  
 支中共軍ニハ大ナル打撃ナキモノト謂フヘシ

~~~~~

211

昭和17年6月6日

在北京土田参事官より
 東郷外務大臣宛(電報)

華北政務委員會諮問会を前に同會議員との懇

談模様について

北京 6月6日後発

本省 6月6日夜着

第五二七號(極秘、至急)

往電第五一一號ニ關シ

一、諮問會議員ノ王克敏外六名ハ三日着燕四日關係各方面ニ挨拶ヲ爲シタル後五日勤政殿ニ於テ豫備會議ヲ開催セルカ右會議ニ連絡係トシテ列席セル町田(唯一ノ日本人出席者)ヨリ會議模様左ノ通り内話アリタリ

先ツ王揖唐ヨリ一般政情、治安強化、物價安定、中日文化交流ノ諸問題ニ關シ説明ヲナシタル後質疑ニ入りタルカ王克敏、龔心湛[○]、[○]議長ヲ交替シ發言ヲナシタルカ特ニ王克敏ハ華北ニ於ケル物價不安定及金融不圓滑ニ關スル政務委員會ノ施策ヲ論難シ其ノ善處ヲ要望セルカ其ノ態度眞摯ニシテ列席者ニ感銘ヲ與ヘタリ

二、五日夕軍司令官ノ招宴ニ王揖唐並ニ七委員會武官、連絡部長官及本官(原田書記官帶同)軍司令部ニ參集開宴前約二時間ニ亘リ懇談セルカ先ツ軍司令官ヨリ委員慰勞ノ挨拶ヲナシタル後本官ヨリ大東亞戰爭ニ對スル帝國政府ノ

決意ヲ東條首相ノ第八十議會演說ノ要旨ニ基キ敷衍説明シ次テ久保田海軍武官及有末參謀副長ヨリ南方作戰ノ戰果、鹽澤長官ヨリ南方物資獲得狀況ヲ夫々地圖及表ニ依リ詳細説明アリ最後ニ軍司令官ヨリ大東亞戰開始以來ノ日本軍ノ赫々タル戰果ニ依リ日本ノ絕對不敗ノ地位確立シタルカ華北ハ各位ノ努力ニ依リ日華合作及東亞共榮圈建設基地トシテ寄與スル所大ナルモノアリ日本側官民ノ感謝措ク能ハサル所ナルカ日本側トシテ各位ニ協力スヘキ點或ハ日本側措置ニ關スル不滿等アラハ本席上或ハ書面ニテモ可ナルニ付忌憚ナキ意見ヲ拜聽致度シト述ヘタルニ對シ龔心湛ハ中支、蒙疆地區カ夫々獨立ノ貨幣制度ヲ有シ居ル爲種々不都合ヲ生シ居リ華北金融ノ不安ノ原因モ右ニ基因スト認メラルルニ付右調整ヲ望ム旨及吳毓麟ヨリ共產匪跳梁後ノ冀東地區ノ懽懽ニ付日本軍ノ善處ヲ得度キ旨夫々陳述アリ軍司令官ヨリ前者ニ關シ中支ハ華北程總テカ整頓シ居ラス且作戰上ノ理由ニ依リ華北トノ經濟的連絡モ兎角不圓滑ナルハ承知シ居リ漸進的ニ何トカ調整致度ク考慮シ居レリト答ヘ更ニ將來對蘇關係惡化ノ場合ト雖モ華北ニ於ケル軍力ハ堅固ニ付安心アリ度

キ旨述へ懇談ヲ終了セルカ右席上ニ於ケル各委員ノ眞面目ナル氣持ハ歷々見ルヘキモノアリ前記町田ノ報告ニモ照ラシ今次諮問會議ハ豫想外ノ成功ヲ期待シ得ヘシト認メラレ尙從來ノ型ヲ破リテ行ハレタル本會議ハ支那側ニ多大ノ感銘ヲ與ヘタル様見受ケラル

南大、上海、天津、青島へ轉電セリ



212

昭和17年6月12日
在中国重光大使より
東郷外務大臣宛(電報)

汪兆銘の広東訪問目的に関する内話について

南京 6月12日後発
本省 6月12日夜着

第七五三號(極祕)

往電第五五六號ニ關シ

十二日汪主席ト會談ノ際主席ハ今回ノ廣東行キハ毎年一回同地ニ赴キ軍隊ノ檢閲ヲ行フ例ニ依ルモノニテ四、五日ニテ歸寧スル豫定ナルカ大東亞戰爭後廣東省ノ政情ニモ種々ノ變化ヲ生シ居レル模様ナルニ付親シク之ヲ視察セル上同地方カ大東亞戰爭遂行上重要ナル地位ニ在ルニ鑑ミ關係當

局ヲ鼓舞激動シ度シト考へ居レリ就中重大問題ハ香港人口疎散ニ依リ省内ニ流レ込ミタル四十餘萬ノ失業者ニ對スル處置ニシテ右疎散ハ當時省政府當局カ極力援助セル結果ナルカ今や省政府ハ之カ爲極メテ困難ヲ感スルニ至レリ即チ之等失業者ハ街ニ溢レ出シ捨兒等多ク或ハ死體ヲ街路ニ遺棄シ甚シキハ屍肉ヲ食フ者相當アリ目下之カ救済ノ爲種々ノ施設ヲ試ミツツアリト例ヘハ乞食ノ子供收容所ヲ設ケタル所一ケ月二三百人ニ達シタルカ如キ狀況ニテ數多社會問題發生シ居ル實狀ナリトノコトナルニ付特ニ此ノ方面ノ狀況ヲ視察シ出來得ル限り解決ノ途ヲ與ヘ度キ積リナリ同地方ニ於ケル通貨ノ問題モ相當複雑ニテ之亦當局ニテ困難ヲ感シ居ル由ナルニ付篤ト視察致度シ結局今回ハ軍隊ノ檢閲モ斯カル政治方面ノ問題ニテ忙シカルヘシト述ヘタリ御參考迄

北大、上海、廣東へ轉電セリ



213

昭和17年6月15日
在中国重光大使より
東郷外務大臣宛(電報)

日本訪問の感想等に関する褚民誼との会談に

ついで

第七六六號（館長符號扱）

南京 6月15日後発
本省 6月15日夜着

① 褚民誼十三日本使ヲ來訪シ訪日中ノ行事ニ付詳細報告スルト共ニ首相、外相等政府首腦ヨリ日本ノ對支既定方針ニ大東亞戰爭ニ依リ微動ダモセサル旨表明セラレ非常ニ勇氣付ケラレタルカ阿部大將、本多前大使、近衛、平沼、頭山ノ諸公ト面會ノ際ハ何レモ日支問題ノ重要性ヲ強調セラレ最近動モスレハ支那問題カ忘レ勝トナリツツアル際特使ノ訪日ハ歡迎ニ堪ヘストテ非常ニ喜ハレ其ノ厚意ニ感激セリト語り尙一般ニ對スル印象トシテ大東亞戰爭後日本ノ社會ニ何等不安動搖ナク

② 昨年駐日大使タリシ當時ノ狀況ニ比シ一層緊張シ全國民カ一致シテ總ユル生産部門ニ全能力ヲ發揮シツツアルヲ見テ非常ニ心強ク感スルト共ニ其ノ努力ニ敬服セリ殊ニ今回ハ飛行機製作所、兵器工廠等ヲモ見學セルカ其ノ優秀ナル生産力ニハ驚歎セリ過般汪主席ノ滿洲國訪問ニ隨行セル際モ同國建設ノ成績ヲ見テ羨望ニ堪ヘサリシカ今回ハ日本ノ此

ノ狀況ヲ見テ歸國セリト語レリ

尙緒ハ十五日ノ國民黨中央黨部記念週間ニ於テ演説ヲ試ミ前記ノ如キ訪日ノ感想ヲ述ヘテ支那官民ノ奮起ヲ促シタル趣ナリ

北大、在支各總領事ヘ轉電セリ
北大ヨリ北總ヘ轉報アリタシ



214 昭和17年6月16日

在滿州国梅津大使より
東郷外務大臣宛（電報）

張景惠の南京国民政府に対する見方について

新京 6月16日後発
本省 6月16日夜着

第四六四號（極秘、館長符號扱）

南京ヨリ歸國セル張國務總理大臣ハ十五日歸任挨拶旁々本使ヲ來訪シ感想トシテ大要左ノ通り述ヘタリ

今般大命ヲ奉シ特派大使トシテ赴寧シ中國官民ノ熱誠ナル歡迎ヲ受ケ誠ニ感激ノ至リナリ幸ニシテ滿華提携ヲ一層深メ得テ其ノ使命モ達成セラレタリト信スト冒頭シ國府ヘノ要望ニ言及シ國府ハ汪主席一人カ斷然拔キン出ラレ光彩ヲ

放チ居ルモ遺憾乍ラ其ノ次位ニ立ツ者ニ人才乏シク且目下ノ處維新政府其ノ他ノ分子ヲ包含セル爲寄合世帯ノ如キ觀アリ尙主席ノ心勞ノ程ノ竝タナラヌモアリト思ハルル點ハ主席ニハ實力ト經濟力トヲ缺キ居ル爲重慶切崩シニモ甚タ困難ナルヘシト思考セラルルコトナリ又陳璧君カ汪主席ト政治的見解ヲ異ニシ居ルコトモ看取セラレタルカ之等ノ諸點カ國府ノ弱味ヲ爲シ居ルモノナルヘシ幸ニシテ滿洲國ニハ以上ノ如キ弱點無ク好條件ニ惠マレ居ル爲余モ亦心強ク今後共益々發展成長ニ粉骨碎身努力致度シ

(編註)

編 注 訂正報により末尾に「南大、北大、上海ニ轉電セリ」

が追加された。

215

昭和17年6月27日 在中国重光大使より
東郷外務大臣宛(電報)

広東方面の諸情勢に関する汪兆銘との会談に

ついて

南 京 6月27日後発
本 省 6月27日夜着

第八四三號(極秘)

汪主席廣東ヨリ歸ヘリ二十三日會見シタル處主席ハ先ツ今回「タイ」國ニ於テ國民政府承認ヲ決定セル旨廣東總領事ヲ通シ御知ラセヲ受ケタルカ右ハ日本政府ノ努力ニ依ルモノトシテ深甚ノ謝意ヲ表スル次第ナリト挨拶セル後廣東方面ノ情況ニ付大要左ノ通り語レリ

一、廣東省政府ハ香港ノ人口疎散ニ協力シ約五十萬人ヲ省内ニ入レタルカ其ノ十分ノ七ハ鄉里ニ歸ラシメ之カ爲六百萬元ノ經費ヲ費シタリ他ノ十分ノ三八今猶廣東市ニ於テ救濟シツツアリ(往電第七五三號參照)

二、廣東ニ於ケル法幣ハ軍票一元ニ對シ十一元迄暴落シ米一石五百元餘ヲ唱ヘ一般民衆ハ苦シミツツアルカ速ニ新法幣ト切換ヘ安定セシメタシ同地方新法幣ノ所要額ハ大體八千萬乃至一億元ト推定セラルル處歸來後財政部長ノ說明ニ依レハ今月十三日ト二十四日ノ二回ニ亘タリ約四五千萬元ヲ輸送スル手筈ナリ

三、米、石炭、油ハ特ニ缺乏シ居ル模様ナルカ根本的ノ方策ハ輸送機關ノ整備ニアルヲ以テ現地當局ニ對シ「タイ」國ニ通スル鐵道敷設計畫及應急措置トシテ「ジャンク」

ノ利用ヲ提言シ置ケリ「ジャンク」利用ニ付テハ日本軍側モ賛成ニテ目下研究中ナル由ナリ

四、軍隊ハ二個師以上アリ兵約一萬餘ニ達シ居ルモ武器不足セル爲動モスレハ重慶軍ニ對シ引ケ目ヲ感シツツアル傾向アリ近ク軍側ヨリ大砲二門、機關銃三十挺^ヲ供給ヲ受クルコトナレリ

五、同地青年團二千人、童子軍六千人ノ檢閲ヲ行ヒタルカ成績良好ニシテ「復興中國保榮東亞」ノ精神ニテ訓練シツツアリ

六、現地日本側當局ハ省政府ノ自發的協力態度ヲ多トシ日本側管理ノモノヲ逐次省政府側ヘ移行スル方針ニテ去ル十九日新聞檢査處ハ軍報道部ヨリ省政府ヘ移リ米國系ノ學校、病院モ省政府ノ經營ニ任スルコトナレリ尙沙面ノ敵産モ漸次省政府側ヘ移管スル意嚮ナル趣ナリ

七、廣東省綏靖主任(陳省主席兼任)ト廣東要港司令部トノ關係ハ調整ヲ要スト認メラルルヲ以テ此ノ際解決シタキ所存ナリ

八、廣東滯在中磯谷總督ニ敬意ヲ表スル爲シユクトクセンヲ代理トシテ往訪セシメタリ

六目下香港ニ在ル李浩駒^{○○○}ハ國民政府僑務委員會員ナルカ前

鐵路部司長「フキリツピン」總領事等ノ經歷ヲ有シ夙ニ和平ノ同志トシテ同地ニ活躍シ大東亞戰爭勃發ト共ニ英軍ヨリ捕虜トナリ日本軍占領ニテ釋放セラレタルモノナリ同人ハ此ノ儘同地ニ留メ置キ國民政府正式ノ機關ニハ非ストモ同志トノ聯絡及華僑ノ世話ニ當ラシメタキ考ヘナリ

北京(大)、上海(總)、廣東ヘ轉電セリ

216 昭和17年10月28日

在中国重光大使より
谷外務大臣宛(電報)

華北の状況に対する汪兆銘の見解について

南京 10月28日後発

本省 10月28日夜着

第一五一三號(極秘、部外秘)

主席今回ノ北上ニ關シ汪主席ノ態度ハ往電第一四九五號主席談話ニ依リ明カナルカ從來國民政府ノ唱道シ來レル東亞聯盟及新國民運動カ北支側ヨリ受人レラレス動モスレハ思想的ニ分離セントノ傾向アルニ對シ政府部内ニ於テ之ヲ遺

憾トスル者多ク汪主席モ苦慮シツツアリトノ聞込アリ更ニ
數日前汪主席ハ側近者トノ談話ノ際和平地區ノ現狀ハ還都
當時ノ要望ヲ裏切り各地特殊化ノ傾向益強ク若シ之カ改善
ノ見込無キニ於テハ國民政府存立ノ意義無キニ至ルヘシト
述懷セル趣ニテ主席ハ北京ヲ觀察シタル上更ニ漢口ニ赴キ
篤ト現地ノ狀況ヲ見極メントスル意嚮ナリト傳ヘラル右ハ
側近者方面カ汪主席ノ心境トシテ傳ヘタルモノナルカ御參
考迄

217 昭和17年12月24日

在北京塩沢公使より
青木大東亜大臣宛(電報)

汪兆銘訪日に対する華北一般の觀測及び反響
について

第三四四號

汪精衛主席ノ訪日ニ關シ當地一般華人ノ觀測及反響ヲ綜合
スルニ概略左ノ如シ

一、汪精衛主席今回ノ訪日目的ハ單ナル戰果慶祝ニ非スシテ

北京 12月24日後発
本省 12月25日前着

重大要件ノ協議ニアリ恐ラク日本政府招請ニ依ルモノナ
ルヘシ其ノ要件ハ

(1)重慶側對策ニ付和戰何レカノ積極的ナル推進
(2)南京政府參戰問題、等ナルヘシ

右ニ關シ汪精衛主席ハ

(1)華北ノ特殊性ノ解除乃至其ノ前提タルヘキ幣制ノ統一
(2)三億元借款ノ履行或ハ新借款ノ供與
等ヲ提案スヘシトナシアリ

二、華北ノ特殊性解消ニ關シテハ多大ノ困難ヲ伴フヘク其ノ
前提タル幣制ノ統一ハ可能性無シトセストシテ聯銀券價
値ノ暴落ヲ推測シ且下天津方面ニ於ケル一部投機商人ノ
暗躍換物人氣ノ高潮ニ依リ純金、綿布類ノ急騰ヲ來シア
リ

三、當方トシテハ聯銀券ノ存續及其ノ價值維持ニ關シテハ華
人側ノ動搖ナキ様ニ善處シツツアリ

218

昭和18年6月23日

在北京塩沢公使より
青木大東亜大臣宛(電報)

華北の治安状況などにつき実情報告

北京 6月23日後発
本省 6月24日前着

第一四九六號(至急)

特別議會ニ於ケル總理ノ演說ニ依リ華北ノ行過キタル動搖不安ヲ顧慮シ當方トシテ事前ニ政務委員會首腦部ニ工作スルト共ニ財務督辦等ヲシテ密カニ天津方面其ノ他ニ對シ金融不安防止ノ處置ヲ取ラシメ目下其ノ成行ヲ監視中ナルカ演說ノ具體的内容ノ明カナラサル關係等モアリ今ノ處安定ヲ保チアリ華北ノ現狀ニ關シテハ曩ニ往電第一三九五號ヲ以テ報告セル處ナルカ總理ノ演說ニモ關聯シ茲ニ重ネテ華北ノ實情ヲ報告シ慎重ナル考慮ヲ煩スコトト致度本件當地軍側竝ニ堂ノ協課長モ同意ナリ

一、華北ニ於ケル治安ノ實相ハ今尙樂觀ヲ許サレサルモノアリ殊ニ其ノ對象ノ主體カ日本南京國民政府竝ニ重慶側ノ態度如何ニ拘ハラス執拗ニ抗戰ヲ繼續スヘキ中共黨軍ニシテ武力のニハ一應我軍ニ壓倒セラレアリト雖モ其ノ得意トスル政治分子ノ潛行の大衆獲得ノ施策ハ實ニ侮リ難キモノアリ殊ニ我方今次ノ施策ノ轉換ニ乘シ政治運動ハ益々活潑化セントシツツアリ之ニ對抗スヘキ華北政務委

員會ヲ主體トスル自主的ノ政治力ハ漸ク其ノ緒ニ就カントシツツアル現狀ナルヲ以テ敵特ニ中共側ヲ壓倒シ得ルノ時期ハ尙前途遼遠ト認メラル而シテ華北カ依然兵站基地的使命ヲ有シ戰爭完遂上必需品ノ獲得ニ關スル華北ヘノ要望現在ノ如クナル以上華北ノ治安ハ現況以上ニ惡化セシムルコトハ絶對ニ許サレサル處ナリ

二、新方針ニ基ク日本ノ施策ハ概ネ順調ニ推移シアルヲ以テ七月末迄ニハ一應結實セシメ得ルモノト信スルモ他方之ヲ繼承スル中國側特ニ華北ノ實體ハ最近漸ク各種ノ動搖其ノ域ヲ脱シ軌道ニ乗ラントシツツアル狀況ナルヲ以テ將來モ大イニ努力シ日本側モ亦凡ユル好意の支援ヲ爲シツツアルモ尙其ノ結實ハ就中中國側ノ態勢樹立ニハ今後相當時日ヲ要スルモノト認メラル

三、華北ノ治安ノ實相及新方針ニ基ク施策ノ現況ハ前述ノ如クナルヲ以テ其ノ結實ヲ見スシテ華北ノ現段階ニ大ナル變化ヲ來タサンカ再ヒ全面的ニ動搖シ混亂ヲ豫想セラルルヲ以テ目下懸命ノ努力ヲ重ネアル次第ナルカ一方前述ノ如ク中共等ノ政治運動ハ愈々熾烈化シ治安ハ惡化シ華北重要資源ノ獲得、兵站基地の使命ニモ重大ナル影響ヲ

及ホスヘキコトアルヲ憂慮シアリ
南大へ轉電セリ

219

昭和18年7月5日
在北京塩沢公使より
青木大東亜大臣宛(電報)

王克敏の華北政務委員長就任式における訓示
について

北京 7月5日後発
本省 7月5日夜着

第一六一〇號(至急)

本使發在北支各公館長宛電報
合第六四四號

一、王克敏新委員長ハ本五日就任式ニ於テ左ノ要旨ノ訓示ヲ
行ヘリ

(イ)前委員長ノ遺志ヲ繼承シ中日協力大東亞戰爭完遂ニ邁
進スルコト

(ロ)華北ノ使命達成ヲ期シ特ニ治安食糧問題ノ解決ニ全力
ヲ盡スコト

(ハ)中央ト華北トハ一體的结合ヲ圖リ歩調ヲ一ニシ前進セ

ンコトヲ期スルコト

政務委員會側トシテハ省市ニ對シ今後更ニ統制力ヲ發
揮シ大東亞戰爭完遂ニ邁進スル覺悟ヲ抱持シアリ、何
レ政務委員會ヨリ各省市長其ノ他ニ對シ正式通牒アル
ヘキモ不取敢電報ス

ニ右ト共ニ本使發合第六二四號電ノ趣旨及東亞報、放送等
ニ依リ委細承知ノ上必要ニ應シ中國側ニ對シ協力アリ度
本電宛先 在北支各公館長

南大、張大、上大、大臣へ轉電セリ

220

昭和18年7月20日
在北京塩沢公使より
青木大東亜大臣宛(電報)

汪兆銘との会談内容につき王克敏より聴取に
ついて

北京 7月20日前発
本省 7月20日後着

第一七一六號

就任ノ正式挨拶ノ爲赴寧セル王委員長ハ豫定ノ通昨十八日
歸燕シ特ニ本朝本使ヲ來訪シ語レル要旨左ノ通

一、汪主席ニ面談ノ節主席ヨリ華北ノ件ニ付テハ國民政府ノ面子ノ立ツ様ニ處理願度ク然ル上ハ實質的ニ萬事御願ヒスル積リナリト語り其ノ外別ニ話ササリシモ氣持良ク會談セリ

二、中支ノ經濟關係ニ付テハ財界ノ舊友ヲ中心ニ懇談シタルカ中支ノ物資モ左程ナラス食糧ノ關係モ匪區ニ流レ蒐集ニ困難アリ華北カ果シテ從來ノ期待量ヲ入手シ得ルヤ否ヤ樂觀シ難ク中央儲備銀行券ノ發行高ハ八七〇一〇〇萬ニ達シ之カ強化ノコトモ問題ニテ裏付ケ物資ノ取得モ難シク敵産ヲ賣出スモ果シテ買手アルヤ否ヤ只此ノ際金ニテモ銀ニテモ入レハ大ニ助カルヘシト言フニ一應結論セリ

三、就任後旅行續キナリシカ既ニ二週間ノ間一應諸般ノ情勢モ見當付キタルニ依リ御協力ノ下刻下ノ戰時狀況ヲ乗切ル考案ヲ致ス所存ニテ人事モ動搖ヲ避ケルヲ本旨ト公布セルモ漸次時局ニ適應スル如ク引締メ財政モ更ニ重點主義ニ徹シ所要ノ調整ヲ加ヘ度キ考ヘナリ

尙手當中ノ經濟取締リノ關係ニ於テモ政府ハ不心得者アルコト判明セハ斷乎タル處置ヲ爲ス決心ナリ

四、本使ヨリ王委員長今回ノ出馬ハ東京中央ニ於テモ時局柄最モ適任ト認メ大ニ期待スル所アル旨ヲ傳ヘタルニ委員長ヨリ微力乍ラ折角御期待ヲ受ケ又中國側ニテモ種々要望アルヲ思ヘハ責任ノ益々重大ナルヲ痛感スル次第ニテ微力ヲ盡シ其ノ期待要望ニ副ハンコトヲ決意シアリト語レリ

五、本使ヨリ半歲振リニテ上京シ總理以下非常ナル決心ニテ勝ち抜ク體制整備ニ邁進セラレアルヲ感得シ大ニ意ヲ強クシ決意ヲ新ニシテ歸ヘリト語りタルニ委員長ヨリ難局ニ直面スレハ益々一致結束シ之カ突破ニ猛進スル日本ノ國民的傾向竝ニ議論對立スルモ國家的利害ノ爲ニハ釋然一致協力スル點ハ自分モ充分承知シ居リ自分トシテモ之ニ劣ラスカヲ合セ時局ヲ乘リ切ル覺悟ナリト語レリ

六、尙挨拶ノ爲日本ヲ訪問スル件ハ今後ノ政策等ニ付一應內查ヲ得タル上ノコトトスル考ヘナリト語レリ

本電宛先 大臣、南大



221

昭和18年11月5日
在北京塩沢公使より
青木大東亜大臣宛(電報)

華北政務委員会機構改革や治安問題に関する

王克敏の内話について

北京 11月5日後8時30分発
本省 11月5日後10時40分着

第二六七四號(極秘)

昨四日王委員長ハ本使ヲ來訪ノ際今次機構改革ニモ關聯シ頗ル眞劍ナル面持ニテ左ノ通今後ノ決意ヲ披瀝セルニ付御參考迄

一、新機構ニ依ル人事移動ニ付テハ新進ヲ拔擢方研究致シタルモ仕事ノ關係モアリ又從來ノ同志トノ關係ヲ全然斷チ切ル譯ニモ行カサルヲ以テ不満足乍ラ原則トシテ在來ノ人ヲ以テ充ツルコトト致シタル次第ナリ

二、今後ノ施策トシテハ「モスコ」ニ於ケル英米「ソ」重慶ノ共同宣言モアリ戦局ハ益々苛烈トナルヘキ情勢ニアルヲ以テ何ヨリモ治安確保ニ重點ヲ置キ吏道ノ肅正及人民ノ負擔ヲ輕減シテ民心ヲ把握シ日本ノ肩ヲ輕クスル爲ニ全力ヲ盡クシ度之カ爲ニハ現在人民ノ保護ニ當ルヘキ

ニ拘ラス却テ弊害ヲ生シ居ル治安軍歸順軍隊保安隊等ヲ整理スルノ要アリト思考シ居レリ從テ治安督辦ニモ亦適任者ヲ選定スル要アリ(從來王委員長ハ治安問題ニ付テハ餘リ熱意ヲ有セサリシ點ヨリ見レハ注目スヘキ言ナリ)

三、全面和平ハ必ス實現セシメサルヘカラルモノナルモ前途猶遠ノ感アルニ付差當リハ戰ヒツツ之カ實現ヲ圖ラサルヘカラス即チ戰フコトヲ本旨トシテ後方基地ヲ固ムルニ努ムヘキモノト決意シアリ

四、自分ハ老齡ヲ顧ミス再出馬セル以上今後自分ニ殘存セル力ハ盡ク使ヒ盡クス覺悟ヲ以テ華北ノ施政ニ全力ヲ盡クス心算ニシテ昨日モ政務委員會職員ニ對シ右自分ノ決意ヲ訓示セル次第ナリ

南大へ轉電セリ

~~~~~

222

昭和19年9月13日  
小磯(国昭)総理大臣  
汪時璟華北政務委員會經濟總署督弁  
会談

華北情勢等に関する小磯首相と汪時璟華北政務委員會經濟總署督弁との会談

昭和十九年九月十三日午前十一時十分華北政務委員會

經濟部督辦兼聯銀總裁汪時璟氏、祕書歐陽戴祥、張同德二氏ヲ帶同シ小磯總理大臣ヲ官邸ニ訪問シ正午迄會談ス岩松中將（顧問）同席ス談話要領左ノ如シ

汪 今回華北政務委員長王克敏氏ノ命ニ依リ汪主席ノ病氣ヲ見舞ヒ其機會ヲ利用シテ閣下始メ貴國政府要人ニ敬意ヲ表スル爲上京シテ參リマシタ

總理 ソレハ能ク御越シニナリマシタ自分トシテハ極メテ緣故ノ深イ又日本トシテ最モ關心ヲ持ツ華北政務委員會ノ責任アル方々ノ來訪ヲ受ケ親シク御話シ致ス機會ヲ得ルコトハ甚ダ欣快トスルトコロデアリマス汪主席ノ病狀ハ如何デシタカ

汪 汪主席ハ經過宜敷イ様デアリマス日本ニ於テ治療ヲ受ケテ以來今日ニ至ル迄日本朝野ノ示サレタル御親切ニ對シテ深く感謝シテ居ラレマス私ハ王克敏委員長ノ命ニ依リ御見舞ヒニ來タリシコトヲ述べ慰問致シテ參リマシタ

總理 華北ノ一般狀況ハ如何デスカ

汪 一般カラ申シマスレバ華北ハ他ノ地方ヨリモ宜敷イトハ申サレマスガ華北ノ各地ヲ見ル場合ニハ満足ト云ヒ

得ル所ガ無いノデアリマス華北ノ各地共ニ八路軍ノ工作ガ行ハレテ居リマスカラ油斷ガ出來マセヌ八路軍ノ討伐ハ日本軍ノ手ニ依ツテ行ハレテ居リマスガ蔣介石ガ曾テ江西ノ共產軍討伐ニ際シテ彼等ニ對シテハ軍力三分政治力七分ガ必要ダト云ヒマシタガ全ク其通りダト思ハレマス我方モ亦政治力ヲ以テ共產黨ノ政治工作ニ對抗スル必要ガアリマス

總理 御説ノ通りデセウ延安政府ノ政治力ヲ民間ニ滲透シテ行ク力ノ強イト云フコトハ之ハ延安政府ガ「ソビエツト」ノ筆法ヲ用ユル爲メト云フヨリモ延安政府ハ中國人ノ手ニ依ツテ中國人ノ爲メト稱シテ工作スル所ニ力ガアルモノト思ハレマス矢張り中國ノ政治ハ中國人ニ依ツテ行ハレナケレバ駄目デセウ從テ之ニ對抗シ之ニ打勝ツベク充分ニ施策シ充分ニ努力セラレンコトヲ希望シマス今ヤ戰局ハ苛烈デアツテ現戰局ハ必ズシモ日本ニ有利トハ申サレマセヌ而モ我等一億國民ハ必勝ノ信念ヲ以テ此戰局ヲ轉回シ主動のニ着々施策ヲ實施シテ居リマス而シテ必ズ勝利ヲ得ルモノト確信シテ居リマスルカラ華北政務委員會ノ方々モ亦此信念ヲ以テ

人民ヲ指導シ必勝ノ信念ヲ燃ヘ上ラシムル様ニ努力致サレタイモノデス戦局上觀察シテ居ルト敵ハ我共榮圈ヲ南北ニ切斷セントスル企圖アルモノノ如クデアリマス萬一南北ニ切斷セラルル場合アリトスレバ北ハ北、南ハ南夫々自ラ立ツテ戰フベキ用意ヲ致サネバナリマセヌ斯ル場合ニ日滿華ガ北ノ一團トナツテ之ヲ處セネバナリマセヌスク一團トナツテ之ニ當レバ少シモ恐ルコトナキノミナラス之カ南北切斷ヲ不可能ナラシムル道デモアリマス此場合華北ノ任務ガ極メテ重大デアリマス而シテ華北ノ民衆ガ此道ニ邁進スルコトガ華北民衆ノ幸福ヲ招來スル道デアリ東亞ノ繁榮ヲ招來スル道デアリマス此意味カラ見テ來マシテモ日本ト眞ニ共死共生ノ關係ニアル次第デアリマス華北官民ノ間ニハ時局ノ前途ヲ悲觀スル者アルヲ免レヌコトト存ジマスソレハ獨リ華北其他ノ官民ノミナラス我國内ニ於テモ現在ノ戦局ヲ見テ前途ヲ悲觀的ニ考慮スルモノアルヲ免レマセヌデシタガ過般最高戰爭指導會議ニ於テ策定セル根本方針ニ基ク決戰施策ヲ表明公約シ又今回ノ議會ヲ通ジテ政府ノ所信ヲ中外ニ闡明スルト共ニ國民ニ

戦局ノ實相ヲ傳ヘソノ憤起ヲ促シマシタノデ國民ハ一切ニ憤然トシテ起チ上リ益々戰意ヲ燃スニ至リマシタカラ今後ハ物心兩面ニ大活躍ヲ致スコトト思ハレマス此點ハ御安神下サイ又華北ノ政府要人始メ民衆ニモ之ヲ傳ヘテ一層戰意ヲ燃ヘ上ラシムル様ニ努力ヲ願ヒマス

汪

能ク解リマシタ今度日本ニ來テ見テ此眼デ實際ニ見テ大ニ感動シタコトヲ申上ゲマスト第一日本人ハ官民一  
 体一個一個ノ人ニ就テ見テモ眞ニ戰意ノ充實シテ居ル  
 コト第二一般民衆ノ生活ガ少シモ平日ト變ラズ整然ト  
 シテ日常生活ヲ營ミツツアルコト第三物資愛護ニ徹底  
 セルコト第四上下ヲ通ジテ食糧増産ニ全力ヲ擧ゲ寸尺  
 ノ土地ヲモ利用シツツアルコト以上ノ四點ヲ痛感シマ  
 シタ之カラ見レハ華北ノ民衆ハ文句ヲ云フ餘地ハアリ  
 マセヌ今度北京ニ歸リマシタナラバ政務委員會ノ人々  
 ニモ充分ニ之ヲ傳ヘ民衆指導ノ上ニモ大ニ努力致サネ  
 バナラヌト思ツテ居リマス華北デハ食糧問題ガ大キナ  
 問題トシテ取り上ゲラレテ居リマスルガ之ニ就テモ大  
 ニ考ヘサセラルル所ガアリマス

總理 我國ニ於テモ食糧増産ト國民生活ノ安定確保ト云フ

コトニ大ニ力ヲ入レルコトニナツテ居リマス貴方モ亦同様デセウ之ニ對シテモ出來ル丈ケノ援助ヲ致スコトニ致シマセウ

汪 誠ニ有ガタウ存ジマス本日「クレジツト」ノ契約ニ調

印致シテ參リマシタ感謝致シテ居ル次第デアリマス

總理 二億圓ノ「クレジツト」ノ契約ガ出來テ御目出度ウ

存ジマス御歡ヒ申上ケマス夫レニ就テ特ニ御禮申上ケネハナラヌノハ今度貴重ナル鹽ヲ多量ニ御贈リ下サツテ誠ニ有リガタク存シマス一ツ握手ヲ致シマセウ（有ガタウト云ツテ總理ト汪督辦ト握手ス）前刻汪主席ノ病狀ニ就テ御話シガアリマシタガ汪主席ノ病狀モ一時不安ノ時ガアリマシテ心配致シマシタ其後周佛海氏ガ汪主席見舞ノ爲メニ來邦セラレシ際三回會見シテ充分ニ懇談ヲ遂ゲマシタ其際萬々一汪主席ガ不幸不起ノ場合ニ處スベキ施策ニ就テ萬端打合セヲ了シマシテ萬一ノ場合ガアリマシテモ南京政府ハ微動ヲモ來サヌ丈ケノ手ヲ打ツテ置キマシタカラ華北政務委員會ニ於テモ此點ニ充分ニ安神セラレテ萬事其積リテ處置セラレン

コトヲ希望致シマス汪委員長ニモ此點御傳ヘ置キヲ願ヒマス

汪 能ク判リマシタ必ス御説ノ點ヲ傳言シ吾等モ亦其積リ

テ行動スルコトニ致シマス

總理 元來日本ノ軍隊ナルモノハ他國ヲ占領スル爲ニ存ス

ルノデハナクシテ自國防護ノ爲メニ存スルノデアリマス之カ爲メニハ進デ敵ヲ打ツコトモアリマスガ之ハ防護ノ必要上ニ出テタモノデアリマス貴國ノ軍隊モ亦同様ト存ジマスソモソモ武ト云フ文字ハ戈ヲ止ムト書イテ武ト云フノデスカラ矢張り防護ノ爲メデアリマス日本ノ歴史ハ神武天皇以降二千六百餘年デアリマスガ古書ニ依リマス約百七十九萬年ノ昔カラ續イテ居ルノデアリマス少シ古イ話デスガ其百七十九萬年ノ昔ノ日本ノ記錄ニ依リマシテモ日本ノ軍隊ハ防護ノ爲メニ存スルト云フコトガ判ルノデアリマス從テ今日日本ノ百萬ノ軍隊カ支那ニ入込ンデ居リマスガ重慶政府ノ抗日ガ無クナレバ此ノ百萬ノ軍隊ハ悉ク日本ニ引揚グルコトトナリマセウ此事ハ日本政府ガ内外ニ聲明セル所デアツテ之ハ全ク間違ヒノ無イ所デアリマス其時トナレ

バ中國ノコトハ中國人ノ手デ萬事行ハレナケレバナリ  
マセヌ一方ニハ延安政府ノ手が各地ニ延ビテ居ルトス  
レバ之ニ打勝ツテ中國ノ政治ヲ行フ丈ケノ手腕ヲ練リ  
之ニ處スヘキ方法ヲ豫メ充分ニ研究シテ置クコトガ何  
ヨリモ大切ナコトト思ハレマス

汪

今重慶政府ヲ抗日ガ無クナツタトシテ日本軍ガ直チニ  
中國カラ引揚グルコトトナレバ一縣ヨリ撤兵セバ其一  
縣ハ共產黨ノモノトナリ一省ヨリ引揚グレバ其省ハ共  
産黨ノモノトナルデセウ從テ日本軍隊ガ中國ヨリ引揚  
グルコトトナリマシテモ其處ニ自ラ技術上ノ問題ガ殘  
リマセウ重慶政府ノ抗日ガ無クナツタカラト云ツテ直  
チニ全軍ヲ引揚グルト云フコトハ實行不可能デナイデ  
セウカ

總理

御説ノ様ナコトモアリマセウ斯ル場合ニ中華民國ノ  
方デ此部分ノ皇軍ノ引揚ゲヲ今暫ラク見合ハシテ呉レ  
ト云フ様ナコトガアレバ日本トシテハ中國側ノ爲メニ  
ナル様ニ其場合ニ應ジテ相談ノ上善處スルコトトナリ  
マセウ

汪

其通りデス之ハドウシテモ日本ノ保護援助ヲ受ケルノ

デナケレバ中華民國獨力デ直チニ戰後ノ局面ヲ收拾ス  
ルコトカ六ヶ敷イコトト思ヒマス私ノ今云フ様ナコト  
ヲ云フコトヲ好マス中國人モ多イコトト思ヒマスカ事  
實問題トシテ中國ノ爲メニ眞ニ其繁榮ヲ計ラントセハ  
矢張り日本ノ援助ト保護ヲ受クルコトカ必要デアリマ  
ス

總理

其點ハ能ク判リマシタ之ハ其時ニ及ンデ双方充分ニ  
協議善處スルコトガ肝要デセウ

汪

本日ハ實ニ親シク總理ノ御示教ヲ仰グコトガ出來マシ  
テ誠ニ有ガタク存ジマス歸リマシタナラバ總理御意見  
ハ必ズ王克敏其他ノ要人ニ傳ヘテ總理ノ御趣旨ニ添ヒ  
得ル様ニ努力致シマセウ

總理

前ニモ申シマシタ様ニ我國ニ最モ關係深キ吾々ノ深  
キ關心ヲ持ツ華北ノコトハ充分ニ知リタク又我國ノ實  
情ヲ華北ノ人ニモ知ツテ齎ヒタイト思ヒマスカラ今後  
再々御來訪ヲ願ヒマス又他ノ要人方ニモ時々御出カケ  
下サル様ニ御傳ヘヲ願ヒマス(斯クテ食堂ニ入ル)

午餐ニ同席セル者主客十八名

汪督辦、歐陽載祥、張同德、岩松中將(顧問)

外、陸、海、軍需、大藏各大臣、蔡大使、田中書記官長、  
三浦法制局長官、稻田總務課長三祕書官、林出(以上)

223

昭和19年9月13日

重光外務大臣  
汪時璟華北政務委員會經濟總監督并 會談

國際情勢等に関する重光外相と汪時璟華北政  
務委員會經濟總監督并との會談

林出識

昭和十九年九月十三日午後六時華北政務委員會經濟總  
監督兼聯銀總裁汪時璟氏外相官邸ニ來訪シ六時半ノ  
晚餐迄約三十分間會談ス要領左ノ如シ

汪 今日ハ大臣ニ對シテ打開ケテ御話シ申上ケ又御示教ヲ  
仰キタイト思ヒマス

大臣 ソレハ結構デス林出ガ同席シテ居リマスガ之ハ全ク  
内々ノ人デ如何ナル事ヲ御話シニナルモ少シモ心配ハア  
リマセヌカラ充分ニ御話シ下サイ

汪 時局ハ益々重大トナリ戦局ハ極メテ複雑トナリ東西ト  
モ容易ナラザル局面ニ立到リツツアル様デス私ハ思フニ  
戦争ハ勿論武力ニ依ツテ勝敗ヲ決スルモノデアリマスガ

斯カル複雑ナル局面ニナリマスルト外交上ノ手腕ヲ振フ  
餘地ガ澤山アルノデハナイカト思ハレマス孫子ノ兵法ニ  
モ戦ハズシテ勝ツノガ上策デアルト申シテ居リマス歐洲  
ノ戦局ヲ見マスト獨逸ハ次第二壓迫セラレテ前途樂觀出  
來ヌ様ニモ思ハレマス伊太利ガ政變ニ依ツテ無力化シ今  
又獨逸ガ敗ルルコトモナレバ樞軸國ノ二ツガ脱落シテ  
日本一ヶ國トナリマスガ其ノ時ハ日本ハ如何ナルデセウ  
カ

大臣 此戦争ハ樞軸國ガ相談ノ上デ始メタモノデナク各國  
夫々自國ノ戦争目的ヲ以テ戦ツテ居ルノデアツテ假令獨  
伊ガ失敗シテ樞軸側ヨリ脱落スルニ至ルコトガアルトモ  
日本ハ何等變ル所ナク戦争目的ニ向ツテ邁進スルノミデ  
アリマス西ハ西、東ハ東テ我等ハ東方ニ於テ敵米英ノ勢  
力ヲ驅逐シ東亞民族ヲ解放シ東亞共榮圈ノ確立ニ努力ス  
ルノミデス

汪 判リマシタ日本ハ西歐ニ於ケル戦局ガ如何ニ推移スル  
トモ之ニ關セズ飽迄戦ヒ抜クト云フコトガ判リマシタ實  
際徹底シテ戦ハネバナラヌト思ヒマス日本人ハ玉碎スル  
コトヲ急ガズ飽迄戦ハネバナラヌト思ヒマス玉碎ヲ急イ

デ 上御一人ヲ殘ス様ナコトニナツテハナラヌト思ヒマス私ハ此際支那トシテ全力ヲ擧ゲテ日本ヲ援助セネバナラヌト思ヒマス之ガ支那自ラノ存在ヲ保證スル道デアルト思フノデアリマス從來日本ノ支那ニ對スル施策其他ニ對シテ日頃私ハ決シテ満足シテ居ルモノデハアリマセヌ然シ日本ノ國家的難局ニ際シテハ吾等中國人ハ全力ヲ擧ゲテ日本ヲ援助セネバナラヌト思フモノデアリマス斯ルコトヲ云ヘバ中國人中ニハ反對ヲ唱ヘルモノガ多々アルコトト思ヒマスガ私ク信<sup>(マ)</sup>ジ斯克行フコトヲ決意シテ居リマス之ガ中國ノ生キル道デアルカラデアリマス

「ソ」聯ハ日本ノ強國トナルコトヲ望マヌデセウ而シ日本ノ弱体化スルヲ望ミマセヌ日本ガ弱体化スレバ長江一帯ハ英米ノ勢下ニ置カレテ「ソ」聯ノ東方ヘノ發展ヲ阻止セラルルヲ恐ルルデセウ英米モ亦日本ノ強國トナルヲ望マザルモ餘リ弱体化スレバ「ソ」聯ノ勢力東方ニ及ンデ彼等ノ勢力ヲ壓迫セラルルヲ恐ルルデセウ重慶モ亦日本ノ強力ヲ恐ルルモ餘リ弱体化セバ英米ノ勢力強大トナリ又共產黨ノ勢力増大スルヲ恐ルルデセウ殊ニ重慶ハ近來英米ヨリ見放サレテ英米ハ延安政權ヲ利用セントシツ

ツアル際故英米ヲ不快ニ思ツテ居ルデセウ斯カル關係ヨリ見テ其處ニ外交的打ツベキ好キ手ハナイモノデセウカ日本ハ重慶ト延安ヲ如何ナル風ニ見テ居ルノデセウカ如何ナル方法デ之ニ臨マルル積リデセウカ

大臣 重慶延安ニ對スル好キ方法手段ニ就テハ當方ヨリ督辦ノ妙案良策ヲ聞カントシテ居ル所デアリマス日本トシテハ重慶モ延安モ敵トセズシテ局面ヲ纏メタイト念願シテ居ルノデス重慶ニシテ彼等ガ抗日ノ非ヲ悟リ其抗日態度ヲ改メ支那ニ於テ全面和平ガ恢復セラルルニ於テハ日本ハ駐兵ヲ撤收スベキコトヲ聲明シテ居ルノデスガ日本ハ中國ヨリ英米ノ勢力ヲ驅逐シテ中國人ニヨリ中國ヲ治メテ貰フコトヲ願フノデス其中國ノ政治ニ何等干涉スルモノデハアリマセヌ今中國ニハ重慶、延安、南京ノ三政權ガアリマスガ延安政權ニヨツテ支那ヲ統一シテ貰ヒタイト希望スルモノハ多ク無イト思ヒマスガ然ラバ延安以外ノ人ノ手ニ依ツテ中國ヲ統一セラルルコトニナリマセウ其方法ハ種々アリマセウ或ハ南京政府ト重慶政府トノ間ニ<sup>(全)</sup>前<sup>(全)</sup>面和平工作ヲ試ミルコトモ一法デセウ或ハ重慶、南京、延安トノ間ニ和平統一ノ交渉ヲ進ムルコトモ一方

法デセウ何レニシテモ日本トシテハ支那ノ内政ニ干渉シマセヌ目下ノ戰爭目標ハ中國ヨリ英米勢力ヲ驅逐スルノミニアルノデスカラ此目的ガ達セラレ重慶ノ抗日政策ガ無クナレバ戰爭ハ自ラ終ルコトナリマス

汪 戰爭ガ假リニ終ルコトナリマシテ直チニ日本軍ヲ引揚グルコトハ重慶側ニ於テ望マヌコトト思ヒマス何トナレバ若シ日本軍ガ或ル一縣ヨリ引揚グレバ其縣ハ直チニ共產黨ノモノトナリマセウ若シ又日本軍ガ或ル一省ヨリ引揚グレバ其一省ハ之レ亦直チニ共產黨ノモノトナリマセウ故ニ重慶ハ必ズ日本軍ノ即時撤退ヲ好マヌコトト思ハレマス夫レ程八路軍ノ勢力ガ各地方ニ浸透シツツアルノデス之ハ事實デアリマス日本ハ重慶、南京、延安ヲ平等ノ地位ニ認メテ居ラルル様ニ承リマシタガソウデセウカ

大臣 ソウデハアリマセヌ南京ハ日本ト協力シテ戰爭完遂ニ努力シテ居ル政府デアリ華北政務委員會ハ其一部トシテ又同様デアリマス之トハ重慶、延安ハ自ラ別デアリマスガ日本カラ見タ場合重慶ト延安トハ何レモ中國内部ニ於ケル政權デアツテ特ニ何レヲ可トスルト云フ様ナ區別

ヲツケズ何レノ方ヲモ敵トセズシテ時局ヲ纏ムル道ガアレバソレニ依リタイト思ツテ居ルノデアリマス要スルニ敵ハ英米デアリマス中國ノ人々モ此ノ點ニ注意セラレテ早ク英米ノ勢力ヲ國外ニ驅逐シ中國人自ラノ手デ一日モ早ク中國ノ統一和平ヲ確立セラレンコトヲ希望スル次第デス

汪 能ク判リマシタ日本ガ飽迄戰爭ヲ續ケテ目的達成ニ邁進セラルルト云フ御意見モ充分ニ判リマシタ吾々ハ其意見ヲ充分ニ尊重シテ之ニ呼應シテ御援助ヲ出來ル丈ケ致スコトニ努メマス就テハ戦局ノ前途ニ對スル御見込み等拜聽出來マスレバ甚ダ有難キ次第デス

大臣 前ニ申述べマシタ通り歐洲ノ戦局ノ如何ニ拘ラズ我々ハ東方ニ於テ此戰爭目的達成ニ全力ヲ舉グル積リデス今後英米ノ海軍力モ航空力モ増強セラルルデセウ日本モ亦海軍航空ノ勢力擴張ニ努力シテ居マス海軍ノ力ハ彼等ニ及バヌ點ガアルデセウガ航空力ノ増大ハ近來大イニ見ルベキモノガアリマス陸軍ニ至ツテハ彼米英ガ何レノ方面ニ増強シ來ルトモ之ハ恐ルルニ足りマセヌ彼等ハ支那方面ニ多數ノ陸兵ヲ注ギ込ミ來ルカモ知レマセヌ而シ之

第三八九號

224

昭和19年12月13日

在滿州国山田(乙三)大使より  
重光外務大臣宛(電報)

滿州国とソ連との間の主要外交案件について

新 京 12月13日前7時00分發  
本 省 12月16日前3時00分着

ニハ限度ガアリマス彼レ米英ガ大軍ヲ遠ク東洋ニ派遣シ  
テ長日月ノ戰爭ヲ續クルト云フコトハ彼等ノ國內事情ヨ  
リ見テ決シテ許サヌモノガアリマス日本ガ腹ヲ極メテ彼  
等ノ來ルヲ邀ヘ撃ツテ居ル内ニ彼等自ラ弱點ヲ露呈シ來  
ルモノト思ハレマス我レノ乘ズベキ時期ガ必ズ到來スル  
コト一點ノ疑ヒアリマセヌ日本ハ深ク之ヲ信ジテ居リマ  
ス之ヨリ益々強力攻撃ヲ續クルコトニナリマセウドウカ  
中國ノ方デハ之ヲ信ジ安心シテ我國ニ協力シテ大東亞建  
設ノ大業ニ邁進セラレンコトヲ望ミマス

汪 判リマシタ能ク判リマシタ(來客濟到ノ案内再三ニ及  
ブ)今日ハ之迄ニ致シマセウ有難ウ御座イマシタ

(終)

往電第三一九號ニ關シ

最近ノ滿蘇外交案件概要左ノ通り(十一月末日限現在調)

(一)國境事件(主要ナルモノ)

(イ)紅楓島事件

十月五日撫遠警察隊中村警長及滿人二名紅楓島附近ニ  
於テ蘇側ニ拉致セラレタル模様ニテ行衛不明トナリ右  
ト前後シテ蘇聯兵同島ニ上陸シ鐵條網構築作業ヲ實施  
又蘇側警備艇及通信艇各一隻カ同島ニ停泊シ滿側舟艇  
ノ航行ヲ阻害セリ其ノ後越境蘇聯兵ハ十月十四日警備  
艇及通信艇ハ十月二十三日蘇側ニ撤退セリ本件ニ關シ  
滿側ハ十月十八日哈爾賓ニ於テ蘇側ニ抗議セルカ蘇側  
ヨリ未タ回答ナシ

(ロ)十月十日三江省海青鎮「ウスリー」江附近ニ於テ漁夫  
三名蘇側ノ不法射撃ヲ受テ一名負傷セリ本件ニ付滿側  
ハ十月二十五日對蘇抗議セリ蘇側ヨリ未タ回答ナシ

(ハ)十月二十一日黑龍江四季屯上流十「キロ」ニ於テ滿側  
警察隊員一名蘇側ニ漂着抑留セラレタリ十月二十七日  
滿側ハ右身柄返還方要求セリ蘇側ヨリ未タ回答ナシ

(ニ)十月二十二日黑龍江明魯心子附近ニ於テ滿側筏一組

(乗組員六名)ハ蘇側ニ拿捕セラレタリ十一月六日滿側ハ本件ニ付對蘇抗議セリ蘇側ヨリ未タ回答ナシ

(ホ)十月二十七日滿側ハ九月十月中ノ蘇側越境拉致等不法行爲十一件ニ付對蘇抗議セリ蘇側ヨリ未タ回答ナシ

(ヘ)蘇側ハ十月十日滿側ニ對シ六月七月中ニ於ケル蘇聯陸地及河川國境ニ對スル滿側ニ依リ不法侵犯竝ニ射撃事件五件ニ付抗議越セリ右ニ付滿側ニテ目下實情調査中  
(ト)蘇側ハ十月二十三日滿側ニ對シ「ハバロフスク」西南方七十六「キロ」滿領部落「チューチユーパイ」西北五「キロ」ノ蘇領島嶼ニ對スル滿側ノ不法行爲五件ニ付抗議セリ

滿側ニテハ本件實情及紅楓島事件トノ關係等目下調査中ナリ

(二)在蘇滿洲國領事館ニ對スル蘇側待遇

滿側ハ蘇側領事館ニ對スル待遇ヲ正當化セルニ拘ラス蘇側ハ「チタ」及「ブラゴエ」滿洲國領事館ニ對シ今猶

(イ)家屋、煖房等ノ修理ヲ實施セス

(ロ)州議長ハ面會ヲ回避シ

(ハ)食料品其ノ他ノ配給ハ不充分ナレハ之カ増配方申入レ

居レリ

(三)查證問題

滿側ニテハ蘇聯財務官一名、駐日大使館員「スズダレフ」「ペトロフ」在大連領事及同館員等ニ通過查證ヲ發給セリ

三城參事官(家族及女中同伴)ハ十一月十九日入滿セリ

(四)日蘇間外交傳書使ニ對スル滿側待遇

蘇側傳書使ニ對シ哈爾賓ニ於テ食料品ヲ供給スル件ニ付テハ滿側ニテ大體成案ヲ得タルヲ以テ之ヲ日蘇間交渉ニ移スコトナレリ

(五)蘇側ニ漂着セル鱈網船引取、蘇側ヨリ申越セル引取地點不明確ナリシ爲ト引取遷延シ居ル中流水期ニ入レル爲明春解氷ヲ待チテ引取ルコトナレリ

(六)在滿洲里「ワラビヨフ」兄弟商會ノ遺産處分ノ件

最近新聞紙上ニ「ワラビヨフ、チモフエイ」(兄、白系)ノ死亡廣告掲載セラレタルヲ機ニ十一月十七日在滿洲里蘇聯領事ハ重ネテ「ワラビヨフ、セミヨン」(弟、蘇聯人)ノ遺産ニ關シ右ハ蘇聯ニ居住スル兄弟ノ實父及實弟ニ引渡サルヘキモノナル處本件カ解決スル迄商會内ノ商

品其ノ他ノ財産カ散逸セサル様滿側官憲ニ於テ措置セラレタキ旨申越シ滿側ニテハ蘇側申越ハ一應遺族ニ傳ヘ置クヘキ旨答ヘタリ

尙滿側ニテハ右財産カ散逸セサル様裏面ヨリ指導シ居レリ又最近遺族營業繼續ノ意嚮アル模様ニ付更メテ對策考究中ナリ

(七) 蘇聯不時着機ノ件

十一月二十二日蘇聯機一機(二名搭乘)牡丹江飛行場ニ不時着セルカ右ハ天候不良ノ爲針路ヲ誤リ越境シ來レルモノナルコト判明セルニ付滿側ニテハ十一月二十五日蘇側ニ對シ同機ノ越境ニ就キ一應注意ヲ喚起セル上之ヲ返還スル用意アル旨申入レタル處蘇側ヨリ返還方申越セルニ付目下引渡方法ニ付滿蘇間ニ協議中ナリ

(八) 在滿土地建物ニ關スル件

滿側ニテハ(一)本件ハ滿蘇間直接交渉ニ依リ解決ヲ圖ルコトトシ(日本側ヨリ右ノ趣旨蘇側ニ申入ル)(二)在哈爾賓土地建物ニ關シテハ滿側從來ノ主張ヲ維持シ(三)在齊々哈爾土地ニ關シテハ蘇側ニ對シ其ノ權利ヲ證明スルニ足ル證據ヲ提出スル様要求シ建物ハ買収スルコトトシ(ハ)在滿

洲里土地建物ハ蘇側權利ヲ認メタル上之ヲ買収スルコトスル方針ヲ決定セリ尙在哈爾賓蘇聯領事ハ十月二十三日、十一月二十一日ノ二回ニ亘リ本件調査ノ爲ト稱シ館員ノ齊々哈爾及綏芬河旅行許可方申出テ來リタルカ滿側ハ之ヲ拒絕セリ

(九) 乾草搬入ノ件

蘇側ハ十一月十四日書類ニ依ル手續ヲ執ラス乾草ヲ滿洲里ニ輸入スヘキ旨主張セルカ滿側ハ之ヲ拒否セル爲交渉ノ末結局文書ヲ提出シ輸入スルコトナリタリ

(十) 在大連蘇聯領事館ノ件

在大連蘇聯領事館ハ館員ヲ疎開セシムル爲郊外ニ適當ノ家屋ヲ提供方州廳ニ申出テ來リタルヲ以テ州廳ニテハ目下本件研究中ナリ

(出) 蘇聯領事館員ニ對スル貯蓄票附加ノ件

十月十八日在哈爾賓蘇聯領事ハ滿側ニ對シ館員ノ食堂、劇場其ノ他ニ於ケル支拂ニ際シ貯蓄票ヲ抱合セ附加スルコトハ免除アリタキ旨申越セルニ付内地、朝鮮、關東州ノ實狀ヲ參考トシテ對策ヲ決メルコトトナリ目下當館ニ於テ調査中ナリ

尙朝鮮ニ於テハ一般人ト同様之ヲ附加シ關東州ニ於テハ  
免除シ居ルコト判明セル處内地ノ狀況未タ不明ナルニ付  
回報ヲ俟チツツアリ  
蘇、哈爾賓へ轉電セリ

